

# 甲子園って



「甲子園」。そのひびきがいいね。そして、におい。芝生、褐色の土、スタンド、汗。ここは高校球児のものなんだ。中日の選手と初めてここで高校野球を見たの

奇蹟の  
に  
あ  
い  
星野仙一

ほしの・せんいち プロ野球阪神前監督。岡山県生まれ。倉敷商高3年の夏、岡山予選を勝ち上がったが、東中国大会決勝で米子南に敗れた。明大を経て69年中日入団。通算146勝を挙げ、82年引退。87～91年、96年～01年に中日監督としてリーグ優勝2度。02年阪神監督に就任、03年に18年ぶりにリーグ優勝に導いた。04年から阪神オーナー付シニアディレクター。58歳。

は、中学を卒業する春。選抜大会だった。絶対にここでプレーするんだと誓った。最後の夏の東中国大会。準決勝で米子東に、おれのサヨナラヒットで勝った。決勝戦。米子南には練習試合で大勝していたから油断があった。2回に1点先制したけど、4回に3点取られ、2-3で敗戦。内野の間を抜けるような当たりばかりだったけど、3点も取られたらおれの責任。悔しかったし、申し訳ない気持ちだった。高校に進む時、強豪の倉敷工を選ぶつもりだったのを、倉敷商の角田有三部長に「君の力で弱い倉敷を甲子園に連れていってくれ」と頼

## 敗戦の挫折、エネルギーに

君に見せたい夏がある

まれた。それなのに、応えられなかった。

開会式の中継がテレビで始まると、家の押し入れにこもって泣いた。「あの中に、おれがいたはずなんだよ」。自分がテレビで見ているのが信じられなかった。

その入場行進をいま、食い入るように見ている。選手は郷土の代表として、腕を振って胸を張って歩いている。どんな気持ちで歩いているんだろう。うらやましいよ。昨年、アテネ五輪の開会式も現地を見た。確かにお金をかけたイベントだったけど、甲子園の方が感激した。高校生の男女が司会をするとか、シンブルで手作りなのがいい。

あの敗戦は、人生最初の挫折だった。おれの野球の履歴書はいつも、最初に思ったようにはいかなかった。大学も最初は慶応か、村山実さんの母校の関大がいいなど思ったけれど、明大に。でも、そこで島岡吉郎監督に出会えた。ドラフトの時も巨人が指名するという約束を果たしてくれず、中日に。悔しさをエネルギーにしてきた。あの時、甲子園に出ている

ら、今のおれはないよ。負けた選手には「しょげるな。人生この先の方が長いんだ」と言いたい。

2年前、米子南の当時のメンバ1と39年ぶりに会って、食事をした。あいづら自慢ばかりでな。「星野を打ったんだ」って。そう思えば、おれも彼らの人生に貢献したんだな。

試合はどうしてもプロの目で見ってしまうね。宇都宮南が1回、2死無走者から大量失点。だから監督時代に投手陣に言い続けたのは「2死からの四球はいかん」。投手は2死を取るとホッとする。その裏、0-5から送りバント。プロならあり得ないけど、それが教育。どんなに離されても一歩一歩追いつこうと。作戦の中にも人生がある。

野球が五輪競技から除外され、巨人戦の視聴率が下がるなど人気低下が心配されている。野球界の問題はプロだけじゃない。高校、大学、社会人、プロ。自分の利益だけを考えるのではなく、一つになつて盛り上げていかないと。我々野球に携わる者の責任だね。みんな高校野球の卒業生なんだから。(構成・稲崎航一)